

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方策
○教育目標がすみずみまで生かされ、静かな落ち着いたの中に活力ある学校 ○自主・自分で考え行動する児童 自分を律し、自主的、自立的に問題解決ができる生徒 勤勉・心も体も健康で、粘り強く最後まで実践できる生徒 たくましく自己の進路を切り開くことのできる生徒 友愛・自他の良さを認め合って活動する児童 自他の能力を認め、その価値を敬愛できる生徒 ○教職としての見識と指導力を高め、豊かな人間性を培うために、研究と修養に励む教師		小中連携の推進	小中の学習指導要領が全面実施となり、小中で授業改善委取り組む。ICTを活用した授業など、毎月の授業研究を実施する。
		学力体力の向上	福岡市ICT教育推進校に委嘱されており、一人1台の全ての教科での活用、デジタル教科書の活用など、小・中のICT活用の推進を図る。
		不登校児童生徒の減少	教育相談コーディネーターを中心に、外部機関との連携を深め、一人一人のカルテを作成するなど、個に応じた支援を行う。
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
小中連携の推進	キャリア教育を基盤とし、学力の情報の共有化を図る小中合同研究を行う。	・コロナ禍であったが、中学校の教員による研究授業、小学校の教員による研究授業を、それぞれ1回ずつ行い、小中の教員による事前授業や協議会を実施することができた。 ・児童会、生徒会それぞれの活動は行うことができたが、コロナの営業で、一緒に話し合うことができず、合同の行事の推進は難しかった。 ・学期初めに小中の教員による情報交換会を1回実施、また、適時、小中の児童生徒の情報については、情報交換を行った。	
	児童会、生徒会を中心に、小中合同行事を推進する。		
	小中の教員による児童生徒の情報交換会の実施する。		
	0		
学力・体力の向上	帯タイム(【中】舞タイム,【小】パワーアップタイム)の取組を推進する。	・帯タイムを中学校は、朝、小学校は帰りの会後に位置づけ、ICTを活用するなど、100%取り組むことができた。 ・担任による自学ノードの確認は、100%行なえた。 ・各学級の平均点は、漢字は96点と定着を図ることができた。 ※算数は、150点満点のため、平均ポイントは88ポイント ・舞鶴体操は全ての学年で100%実施した。	
	【中学校】自学ノートを活用した家庭学習の毎日の実施(提出率90%以上)と、担任による点検、助言を行う。		
	【小学校】期末テスト(漢字50問、算数のまとめテスト)の実施と定着(平均90点以上)を図る取組の実施する。		
	【小学校】準備運動として、コーディネーショントレーニングを取り入れた舞鶴体操を実施する。		
不登校児童生徒の減少	Q-Uアンケート、いじめアンケート(毎月)を実施・検証を行い、いじめゼロへの取り組みを行う。	コロナ禍への対応として、ICTを活用した遠隔授業、学習指導員の導入など、不登校児童生徒への新たな手立てができた。 ・QUアンケート、いじめアンケートについては、全学年で毎月100%実施した。 ・長期欠席者は昨年度より、小学校3名、中学校は3名減少している。	
	学級力アンケートにおいて、自尊感情・規範意識の項目を肯定する児童を60%以上にする。		
	不登校及び長期欠席児童生徒の減少		
	0		
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
本年度11月までに全児童生徒にタブレットが配付され、ICTを活用した授業が開始された。最初は手探りだったが、徐々に慣れ、活用が進んでいる。今後もせっかくの一人一台のタブレットなので、さらなる活用を目指して頑張りたい。			